

## ご法話

浄土寺の山門にはこのように書かれています。

「境内は感謝と祈りを捧げる浄域です。

ご本尊観音さまにご参拝の上合掌礼拝してお祈り下さい。必ずお導きがあります。」

尾道浄土寺の小林暢善ご住職の法話より（2009年11月10日）

すべての人は瞼を閉じれば母の優しい笑顔が浮かんできます。実は2人の母がいます。1人は生みの母でもう1人の母は観音様です。浄土寺の本尊は観音様です。

慈悲心が最も大事です。

手があるのは人間だけです。動物には足しかないない。いざとなったら四つ足で逃げます。右手が仏の手、左手は人間の手です。2つの手を合わす。すると心が整ってきます。手を合わせて合掌している姿が人間として最も美しい姿です。

心（ココロ）という字には2つの点があります。あれは涙を表しています。

蓮如上人の名残の名号が阿弥陀堂にあります。蓮如上人が6歳のときに本願寺にいてはいけないと母は自ら身を引いて別れ際に「母に会いたくば我は備後の国浄土寺にいる」と言われました。17年経って蓮如上人が成人されて布教の旅の途中で浄土寺にお立ち寄りになられたがお母さんは居られず会われなかった。涙を硯にためて六字の名号をお書きになられたそうです。

浄土寺の石段は厄年の33と42の合計75段あります。

登られる時に「どっこい しょ。どっこい しょ」と声をかけられたと思いますがこのどっこい しょは「六根清浄」からきています。六根とは眼耳鼻舌心意です。

山門をくぐるとすべての人が晴々とした心で善男善女になります。

すべての人は瞼を閉じれば母の優しい笑顔が浮かんできます。実はすべての人には2人の母がいます。1人は生みの母でもう1人の母は観音様です。観音様は生きとし生けるものの母です。浄土寺の本尊は十一面観世音菩薩です。

慈悲心が最も大事です。やさしい心の状態が幸せな状態です。甘やかすことではなく大慈悲の心、喜びも悲しみも共にすることです。おかげさまで(報恩)ありがとうございます(感謝)という簡単な言葉でやさしい心になれます。

小さい時の思い出と言えはやさしいお母さんのことを思い出す。やさしく育て下さったお母さんの温かい心が心に残る。観音様の心に通じている。私たちにはお母さんが二人いる。観音様は生きとし生けるものの母、生きとし生けるものを傷つけてはいけない。仏様の命を受け継いでいる。命を預かっている。預かりものだから大事にする。自分のものと思って粗末にしてはならない。

浄土寺の秘仏は1メートル60センチの檜の一木造りです。表に影仏がご覧いただけます。

やさしい心になれば戦争が無くなる、夫婦げんかが無くなる、心がすくすく育つ。甘やかすことではない。大慈悲の心。喜びも悲しみも共にする。子供が喜んでいたらともに喜び、悲しい時にはともに涙を流す。

おかげさまありがとうございます。でやさしい心になる。報恩と感謝。家庭円満。感化。一番簡単な言葉で一番幸せになる言葉。

やさしい心になれば戦争が無くなる、夫婦げんかが無くなる、子供の心がすくすく育ちます。やさしさとは甘やかすことではなく、大慈悲の心です。喜びも悲しみも共にする。子供が喜んでいたらともに喜び、悲しい時にはともに涙を流すことです。

(文責 義諦)